

—探究を通じて自己創造を！ 挑戦する勇気を！—

課題を主体的に発見・思考・解決し、新たな価値を創造できる人材育成プログラムの研究開発

SSH 指定コースで行われる授業・企画

—今年の SSH ではこんな授業や企画が行われます—

2026年4月13日	1・2年生合同講演会「データサイエンス入門」 平井佑樹先生（信州大学 学術研究院 総合人間科学系）
2026年4月27日～7月23日	研究基礎演習（1年 SS探究基礎ゼミナール）
2026年4月27日～通年	課題研究（2年 SS探究専門ゼミナールⅠ）
2026年7月17日（金）	探究 DAY 前半：講演会 「異常気象の現在」 立花義裕先生（三重大学 大学院生物資源学研究科海洋生物資源学コース） 後半：1・2年生混成グループによる対話会
2026年9月7日（月）	SSH キャリアガイダンス～アカデミック ver.～
2026年9月14日（月）	SSH キャリアガイダンス～社会・企業 ver.～
2026年10月6日（火）	中間発表会ポスター発表と基調講演 講師：手嶋勝弥先生（信州大学アクア・リジェネレーション機構）
2026年11月	東京学芸大学地質学巡検（計画中）
2027年1月	東京大学天文学実習〔他の SSH 校と合同開催〕（計画中）
2027年2月16日（火）	成果発表会 ポスター発表と基調講演（講演者未定）
2027年3月	海外研修（計画中）

研究基礎演習

～ 今年度の開講講座 ～

理 系 的 視 点	生物環境学	生物と環境問題 地球温暖化や大気汚染といった環境問題が生物にどのような影響を与えるか、タマネギの観察から考えます。
	生物免疫学	生体防御って何 ヒトの病原体からからだを守るしくみをゼミ形式で理解し、国立感染研究所を訪問し理解を深めます。
	地球科学	地形と災害の関係を探る 地図・地形図をもとに、地形と災害の関係を自分で考えて理解します。
	物理学	重力加速度を求める 物体の落下距離と落下時間を測定する実験を行い、実験データを解析して重力加速度を求めます。
	確率・統計学	確率 さいころ/カードを用いて実験を行い、実験で得られた数値と理想の数値の値の差異を調べます。
文 系 的 視 点	表現分析学	名実況を生む「言葉の法則」をデータから解明 オリンピック等の場面を題材に、語彙や文の長さ、情報の種類（描写・分析・予測）を分析します。 主観的な「感動」を客観的なデータに変換し、人々の印象に残る言葉のメカニズムを探究します。
	英語言語学	言語の仕組みを探る 日常的に使う言語（言葉）の歴史的（通時的）変化、どのように言語が作られているのかを探究します。
	日本語言語学	日本語の仕組みを考える 印象に残りやすい歌詞を題材に日本語の構造を考え、印象に残るフレーズを作ることが出来るのかについて考えます。
	古典学	古語と現代語 言葉がどのように生まれ、どのように変遷していったのか。語源を含め、歴史的背景から言葉について考察します。
	科学 リテラシー	科学報道と疑似科学 — “科学的” とは何かを見極める メディアで取り上げられる科学の話題を題材に、「科学的」とは何か、また疑似科学とは何かについて探究します。

～研究基礎演習～ 2年次に行う課題研究に向けた、一次データを得る探究方法・実験方法の習得、または科学的思考力の育成を目指す1年SS探究基礎ゼミナール内で行われる講義。講義を聴くだけでなく実際に自分の手を動かし、またはグループで話し合いながら学びます。生徒たちは理系的・文系的視点の講座から各1講座を選び、文理融合的な学びに挑戦します。

研究基礎演習の様子

地球化学講座



物理学講座



確率・統計学講座



探究 DAY

「知る」から「考え、対話する」へ
～探究 DAY 異常気象をテーマに学年を越えて議論～

7月17日（金）、1・2年生特進コース・文理コース合同による「探究 DAY」を開催しました。今回のテーマは「異常気象と私たちの未来」です。午前は三重大学大学院 生物資源学研究科の立花義裕教授を講師にお迎えし、世界各地で頻発する豪雨や猛暑などの異常気象について、最新の研究データを交えながらご講演いただきました。講演では、気候変動が私たち暮らしや社会にどのような影響を与えているのかを知り、「今起きていること」を科学的な視点から考える機会となりました。

後半は、1・2年生混成グループによる対話会を実施しました。

初めて顔を合わせるメンバーでグループをつくり、

「なぜ日本では気候問題が自分事にならないのか。その理由と解決策」

『『おもしろい×得をする』気候変動対策を考えよう』

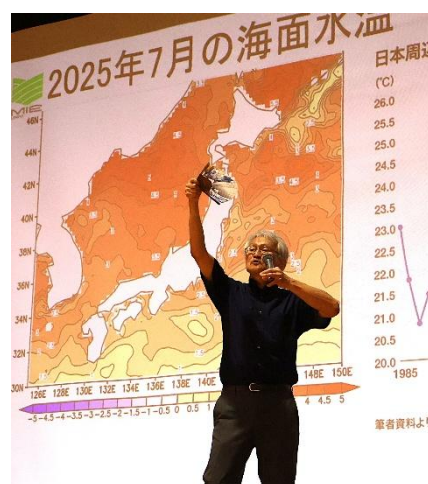
という2つのテーマについて対話しました。対話では、「相手の話を最後まで聞く」「否定ではなく『なぜ?』で考えを広げる」「根拠を大切にすること」などの約束を意識しながら、学年を越えて意見を交わしました。

生徒の声

「異常気象はニュースの中の出来事だと思っていましたが、自分たちの生活にも関わる問題だと実感しました。」

「初めて話す先輩と議論するのは緊張しましたが、自分にはない視点や考え方を知ることができました。」

「『おもしろい』『得をする』という発想で考えると、環境問題も前向きに取り組めることに気づきました。」



「春と秋が短くなり、日本は『二季』になりつつある。先生が提唱したこの言葉は、2025年ユークアン新語・流行語大賞トップ10に選ばれました。講演では、受賞の盾も披露していただき、生徒たちからは「本物だ!」という驚きの声も上がりました。」



学校法人松商学園

松商学園高等学校

SSHの活動はホームページに掲載されています

<https://www.matsusho-h.ed.jp/>

